

学校名		多久市立東原庁舎東部校	
1 前年度 評価結果の概要		・校内研究の推進により教師の指導法改善に向かう意識の高まりが見れた。今後は、基礎的・基本的な内容の確実な定着と思考力・表現力の育成に向けた授業力の向上が期待される。 ・道徳科を中心とした「生と死を考える授業」、人権教育、特別支援教育等の計画的な実践により、共感的な人間関係の育成がなされた。今後は、その人間関係を基盤としたお互いを思いやる心情の醸成が期待される。 ・生活習慣改善に向けた取組を重ねることで、児童生徒の意識に高まりがみられた。今後は、健全な生活習慣の確立と、情報教育に関わる正しい認識の獲得が期待される。 ・PTA活動の活性化に向け、保護者や地域との連携に努めた結果、コミュニティスクールへの認識に高まりがみられた。今後は、保護者や地域との連携や協働の取組を実施し、コミュニティスクールの実働が期待される。	
2 学校教育目標		「思いやりの心を持ち、学ぶ意欲に満ちた児童生徒」の育成	
3 本年度の重点目標		・自ら学ぼうとする意欲を高め、主体的に考えを交流しながら、課題解決をする児童生徒の育成。 ・地域との連携を深め、コミュニティスクールの基盤を確立し、地域とともにたくましく生き抜く児童生徒の育成。	
4 重点取組内容・成果指標			
(1) 共通評価項目			
		重点取組	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○児童生徒が主体的に学び、思考力・表現力を高める授業の実践	○「東部学習スタイル」を、各教科で実践した」と答える教師の割合100%。	・東部学習スタイルを推進するために、以下の2点について全職員で取り組み、学習の深化と定着に取り組む。①めあてを学習内容と児童生徒の学習状況から設定する。②「もくもくタイム」及び「こだまタイム」を設定し考えを交流させ、学習をまとめと振り返る時間を確保する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友だちや家族の気持ちを考えて接している児童生徒90%以上。	・道徳科授業や人権集会、平和集会を計画的に実施し、学校の取組を保護者に知らせ、家庭と連携して児童生徒の豊かな心を育む。 ・児童生徒に相手を尊重する心情を育むことで、友達への言葉遣いの改善を図る。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○すべての教師が、アンケートや教育相談、日常のコミュニケーションなど機会をとらえて、問題の早期発見・対応に努める。学校生活を楽しんでいる児童生徒の割合80%以上。	・開発的・予防的な生徒指導に取り組み、日頃から児童生徒の観察に重点を置く。同時に教育相談や学活ノートを活用し、児童生徒の相談しやすい環境を整える。
	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを実践する。 ・進路説明会や職場体験活動、総合的な学習の時間等を通して、児童生徒が夢や目標をもてるように内容の充実を図る。
	○「生と死を考える授業」の取組	○授業や生活を通して、「命の尊さを知り、家族や友達を大切にしている」回答した児童生徒95%以上	・「ホスピスをすすめる会」など関係機関との連携により、年間を通して「生と死を考える授業」を実施し、育まれた意識の保持を図る。ふれあい道徳で保護者が参加したり、学級通信等で伝えたりすることで、家庭と一体となって命の大切さを考えることができるようにする。
●健康・体づくり	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒85%以上	・「早寝・早起き・朝ごはん」を保護者の協力のもとに徹底する。 ・「保健だより」「食育だより」を活用して啓発を行う。 ・「My弁当の日」(お弁当を自分で家庭で作り、学校で食べる食育活動)を設け、食の大切さを実感させる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。在校時間月45時間以下の割合80%以上。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・午後の各種会議・研修会の内容の精選及び時間配分、担当者の計画的な進行により放課後の執務時間を保障する。 ・長期休業等を利用し、年休取得を進めることで、職員の心身の健全化を図る。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の支援体制の充実	○「児童生徒一人一人の個に応じた支援を行うことができた」と回答した教師の割合95%以上	・長期休業中に、講師招聘研修会、特別支援教育コーディネーターによる研修会を実施することで、個別最適な支援について研鑽を深め、実践につなぐ、質の高い支援体制を保持する。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
		重点取組	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○コミュニティスクール推進	○地域人材・教材の積極的な活用によるコミュニティ・スクールの推進	○「地域の方との体験活動やボランティア活動を楽しみ、有意義だった」と回答した児童生徒90%以上 ○PTAの組織について執行部と協力して見直しをすることで、PTA活動の活性化ができたと感じる教師及び保護者の割合80%以上 ○教職員の校区内行事への参加を呼びかけ、1人1回の参加を奨励する。	・地域の各種団体との連携を深め、地域の人材・教材の活用を充実し、児童生徒会を中心としたボランティア活動を推進する。 ・PTAの各部の活動を精査することで、だれでも参加がしやすく、効率的なPTA活動の運営を行う。 ・行われる地域行事を告知するとともに、学校では見られない児童生徒の様子を観察するという意識を高める。